

実践記録

地域と共に主体的に活動に取り組む

生徒が主役の学校づくり

～ICT 教育を通した主体的に学ぶ生徒の育成を目指して～

(本文)

地域と共に主体的に活動に取り組む

生徒が主役の学校づくり

～ICT 教育を通した主体的に学ぶ生徒の育成を目指して～

1 はじめに

平成29年に改定された現行学習指導要領は、中学校では令和3年度から全面実施となり、「教科等を超えた全ての学習の基盤として育まれ活用される資質・能力」の一つとして「情報活用能力」を位置付け、教科横断的に育成を図ることとしており、そのために必要な ICT 環境を整え、これらを積極的に活用した学習活動の充実を図ることとしている。

また、令和3年3月に出された「第3期くまもと『夢への架け橋』教育プラン」では、子供たちの夢を支える重点取組として、「ICT 教育日本一」を目指し、学校の ICT 環境整備を推進し、生徒一人一人の習熟度に応じた最適な学びの提供、教員の ICT 活用指導力の向上、生徒の情報活用能力の育成などに取り組むとともに、授業の質の向上や ICT を活用するための基礎づくりを図ることとしている。

そのような状況の中、本校は八代市教育委員会から「ICT 教育推進モデル校」の指定を受け、令和4・5年度の2年間にわたり上記研究主題のもと、研究と実践に取り組んできた。以下にその研究内容について論述したい。

2 研究の概要

(1) 主題設定の理由

① 八代市の現状と課題から

令和2年度「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」において、本市の学校における主な ICT 機器の整備の面では、全国平均及び県平均を大きく上回っている状況にある。一方、教員の ICT 活用指導力（小・中学校）の面では、「授業に ICT を活用して指導する能力」「児童生徒の ICT 活用を指導する能力」において、全国平均は上回っているものの、県平均と比較すると、やや低い状況にある。

また、令和3年度全国学力・学習状況調査【生徒質問紙及び学校質問紙】において、「ICT 機器を活用した取組をどの程度行っているか（教職員と生徒がやりとりする場面）」の項目で全国平均は上回っているものの、県平均と比較すると低い活用状況である。「ICT 機器を活用した取組をどの程度行っているか（生徒が一人で活用する場面）」の項目では、「どちらかといえば活用している」という回答まで含めると、全国、県平均を上回っているが、「活用している」と回答した結果では、全国、県平均を大きく下回っている状況である。

② 本校生徒の実態から

令和2年度より、本校でも生徒1人1台のタブレットが導入され、それに伴い ICT を活用した授業や学校全体での活動における活用が高まる中、生徒のタブレット活用に関する基礎知識は低かったものの、指導し実際に使わせることによってほとんどの生徒がすぐに対応できるようになった。

一方で、日常的にはパソコンやタブレットなどの機器に触れていない生徒は、苦手意識を持ち ICT を意識しすぎるあまりに、先生の指示や友達のアドバイスがうまく聞き取れず効果的に活用できない状況が見られる。

上記のことを踏まえ、「ICT 教育」に焦点をあて、「タブレットを活用した効率的・効果的な学習活動」の研究と実践を行うことで、生徒一人一人が主体的に学習に取り組み、自ら進んで ICT を活用しようとする生徒の育成をねらいとして本主題を設定した。

(2) 研究の仮説

ICT を教師と生徒が共に利活用し、効率的・効果的な学習活動を行うことで、生徒一人一人の意欲や向上心が高まり、自ら進んで ICT を活用し主体的に活動に取り組もうとする生徒が育成できる。

(3) 主題について

研究主題である「主体的に活動に取り組む生徒」を育成するために、3つの部会を作り、次のような部会テーマを設定し研究を進めた。

①学力向上部会

～ICT を活用した効率的・効果的な学習活動～

②心の教育部会

～安心して学び合える支持的風土のある学級づくり、生徒主体の学校づくり～

③地域連携部会

～地域とつながり協働し、自ら考え・追求し・学ぶ生徒の育成～

(4) 研究の構想

＜学校教育目標＞

「夢」と「二中プライド」を持ち、社会人基礎力を身に付けた生徒の育成

～C・Sで地域と協働し、ICTの効果的な利活用を通して～

＜研究主題＞

地域と共に主体的に活動に取り組む生徒が主役の学校づくり

～ICT教育を通じた主体的に学ぶ生徒の育成を目指して～

＜仮説＞

ICTを教師と生徒が共に利活用し効率的・効果的な学習活動を行うことで、生徒一人一人の意欲や向上心が高まり、自ら進んでICTを活用し主体的に活動に取り組もうとする生徒が育成できる。

学力向上部会

ICT(タブレットPC)を活用した効率的・効果的な授業づくり、単元・題材のまとまりで授業を構想するカリキュラム・マネジメント、授業のUD化(ICTの活用、授業の流れの提示、板書の共通化・共有化)、学びの苦手な生徒へのICTを活用した学習支援、家庭学習の充実及び習慣化

心の教育部会

心の教育(人権同和教育・道徳教育・特別支援教育等)の充実、道徳の授業の充実を図る工夫、生徒会活動・学級活動・学校行事などの生徒の主体的な活動の推進と充実、基本的生活習慣の確立と「四点固定運動」の推進、不登校生徒へのICTによる学びの場の確立と学習支援

ICT 教育研究部

地域連携部会

コミュニティ・スクール、地域学校協働活動を利用した、地域の方と一緒につくる総合的な学習の時間の取組、地域を知り、地域に貢献する総合的な学習の時間の取組、ICTを活用した総合的な学習の時間の取組、オンライン配信等を活用した学校行事等の情報発信と教育講演会の企画・運営

＜育みたい資質や能力＞

【社会的な資質や能力・態度、社会的に自己実現ができるような資質・態度】

- 豊かな人間性や社会性
豊かな人権感覚、互いを思いやる心、豊かな心・たくましい心身、挨拶・礼儀やマナー、規範意識、人間関係形成力、自主性・主体性など
- 学ぶ意欲や確かな学力
真摯に学びに向かう心、基礎・基本の定着、対話力・段取力・対応力

＜生徒の実態＞

- 長所…素直で真面目、学習態度や諸活動に対する取組は良好である。
- 課題…不登校(傾向)の生徒がいる。自己表現・コミュニケーションや人間関係づくりが苦手な生徒がいる。基礎学力の定着が不十分な生徒がいる。

3 研究の実際

(1) 学力向上部会の取組

① 教科に関する学習

ア 授業実践Ⅰ：第2学年（R4年7月実施）

- 目標：箏の音色と奏法との関わりを理解し、創意工夫を生かした表現で演奏するための右手の使い方や縦譜の読み方などの技能を身に付ける。

○ICTの活用方法

- ・教師による教材揭示 ・動画撮影によるペア学習

○生徒の反応

- ・動画を撮ってその場ですぐに自分の弾き方を確認することで、手本と見比べ友達と意見を交わしながら、右手の使い方を意識して弾くことができ、主体的に取り組むことができていた。



イ 授業実践Ⅱ：第3学年（R5年11月実施）

- 目標：長方形の比に着目し、白銀比や黄金比の性質を考察し表現することができる。様々な長方形について、白銀比や黄金比を見いだす中で、かそうとする態度を身に付ける。

○ICTの活用方法

- ・OneNote や Microsoft Teams を用いた記録・発表

○生徒の反応

- ・身近な長方形の品物が黄金比になっているかを調べ、その結果をタブレット上で友だちと共有することにより、協働的な学びを深めることができた。また、インターネットを使って世の中にある黄金比の例を調べ、数学をより身近に感じる機会を持つことができた。



② 特別の教科 道徳に関する学習

ア 授業実践Ⅲ：第2学年（R5年11月実施）

- ねらい：おばあさんとの出会いから、これからの「私」の生き方について考えることを通して、人間には自ら弱さや醜さを克服しようとする強さがあることに気づき、自分に誇りをもち、人間として気高く生きていこうとする心情を育てる。

○ICTの活用方法

- ・Microsoft Forms を用いたテキストマイニングの活用
- ・SKY MENU の発表ノートを活用したグループワーク

生徒の反応

- ・発表ノートを活用することで、自分の意見だけでなく相手の意見を簡単に取り入れることができ、主体的に話し合い活動ができ、まとめていた。



イ 授業実践Ⅳ：第2学年（R5年7月実施）

○ねらい：人間としての誇りを失わず、過ちや罪に対して、精一杯の誠意をもって生きていこうとする態度を養う。

○ICTの活用方法

- ・SKY MENUの発表ノートを活用した意見の色分けやグループワーク

○生徒の反応

- ・「許す」「許さない」の問いに対する色分けがプロジェクタに映し出された時の反応が大きく、自分の意見の比較やクラス全体的な考えを知る機会となり、興味や関心が一気に高まる時間となった。



③ 総合的な学習の時間に関する学習

ア 授業実践Ⅴ：第1学年（R5年11月実施）

○目標：水俣病問題学習や環境問題について調べる学習を通して、環境を守るために、社会や地域の一員として、自分たちにできることを考え行動しようとする。

○ICTの活用方法

- ・Google クラウドルームを活用した記録や意見交流

○生徒の反応

- ・Google クラウドルームを活用することで、生徒が記録したものを一覧として見ることができるので自分の考えを広げていくことができた。また、考えが同じ生徒と交流することができた。



（2）心の教育部会の取組

① 生徒会（委員会）活動におけるICTの活用

ア プレゼンテーションを使った発表

生徒朝会・生徒総会・生徒議会などの発表場面において、Microsoft PowerPoint等を活用し、活動発表や全校への周知、調査結果の報告を行っている。

また、生徒総会では資料の配付や意見交換もタブレットPCを活用し、生徒の技術向上だけでなく、生徒会がより主体的に活動できるようになっており、集会等が困難な時には、リモートによる集会も行っている。



イ 不登校生や別室登校生への学習活動

不登校生や別室登校の生徒には、タブレットPCを活用し、リモートによる授業参加を行ったり、スタディ・サプリやe-ライブラリなどの課題提示を行ったりと、少しでも学習に興味を持つことができるよう進めてきた。活用している生徒は少ないが、今後も誰一人取り残さない学習の保障を目指して、分かりやすく課

題を提示し、学びの苦手な生徒への補習学習としても活用していきたい。

② 人権教育講演会

ア 近年の人権部落差別問題

○目的：人権部落差別問題について正しい知識を持ち、部落差別問題の近年の問題を知ることで。生徒一人一人の人権意識を高め、差別と向き合う。

○内容：山口県人権啓発センター事務局長の川口泰司さんを講師に招聘し、川口さんが実査に受けた部落差別のことや、近年のインターネットやSNSによる部落差別の拡散の問題について学んだ。

○生徒の感想

部落差別は今でも起こっている問題という事が驚きました。特に私たちがいつも使っているSNSからも間違った情報が拡散されていたり、知らないことでウワサのようにして広がっていったりすることを知りました。これからも正しいことをしっかり学びたいです。

(3) 地域連携部会の取組

① 学校行事のオンライン配信

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、各行事における保護者の参観人数を制限せざるを得ない状況が続いた。その解決策の一つとして Zoom 等のオンライン配信ソフトを活用し、生徒の活動や学びの様子をオンラインで配信した。

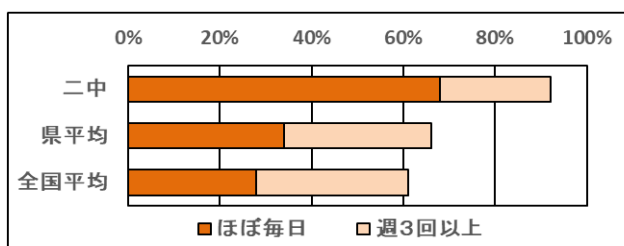
4 成果と課題

(1) 研究の成果

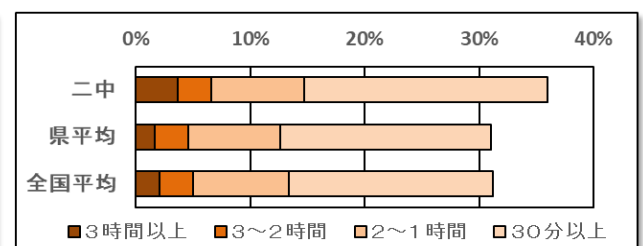
① 全国学力・学習状況調査（生徒質問紙）から

本年度4月に実施された調査結果では、「1、2年生のときの授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の質問で、週3日以上と回答した生徒が92%と、全国平均を30ポイント上回った。また、「家庭学習（宿題）として、どの程度PC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしていますか」の質問で、週1回以上と回答した生徒が28%と、全国平均を5ポイント上回り、「学校の授業時間以外に、1日当たり（平日）どれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか」の質問では、30分以上と回答した生徒が36%と、全国平均を5ポイント上回った。

【ICT機器をどの程度使用しましたか】



【1日にどれくらいICT機器を使用しますか】



② 生徒会の取組から

生徒会主催の生徒朝会や各専門委員会の活動において、生徒によるタブレットPCの活用が定着してきた。具体的には、Microsoft Teams を活用した生徒会担当職員と執行部生徒による文書作成や校正、Microsoft Forms を活用したアンケート作成、プレゼンテーションソフトを活用した専門委員会資料の作成及び生徒朝会での発表等を日常的に行っている。



③ 総合的な学習の時間の取組から

本校ではこれまで、1年生で環境問題を、2年生で職場体験学習を、3年生で福祉問題について、体験活動等も併せて継続的に実施してきた。令和5年4月、3年生で実施した全国学力・学習状況調査の質問紙調査「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」の質問で、71%が肯定的な回答をし、県や全国平均を7ポイントほど上回る結果となった。

(2) 研究の課題

- ① 個別最適な学びに向けてのICTの有効活用を考え、生徒にとって効果的なICTの教材を選び、効率的な授業を行うため、教師の授業力に向けて、校内研修や自主的な研究を進めていく必要があり、使用するソフトについても学校内で統一させ、教師も生徒も使いやすいものにしていく。
- ② 本校の大きな課題として、不登校生徒への対応が挙げられる。そのため全ての生徒が安心して学び合える学校づくりを目指して、心の教育の充実、誰一人取り残さない学びの保障、ICTを活用した学びの場の工夫と学習支援について共通理解・共通実践を図る必要がある。

5 終わりに

令和4・5年度の2年間にわたり、ICT教育推進モデル校として、特にICT機器を効果的に活用した教育実践に焦点をあて研究を進めてきた。I(いつも)C(ちょっと)T(つかう)をキーワードとして、教師も生徒も苦手意識や抵抗が少なく、より分かりやすく誰もが効率的・効果的に使えるよう工夫・改善を行ってきた。アンケートや普段の様子から、身近にICTを感じ積極的に活用する姿が目に見えて多くなっていることはうれしいことである。しかしながら、まだまだICTを使った教材づくりやタブレットのマナーやモラルについても学ばないといけないことがたくさんあると考える。

また、ICT教育の本質である学力充実のための効果的な活用についての研究や生徒の学習保障のためのICT活用については、本校の校内研修等を通して、これからも研究を続けていかなければならない。今後、これまでの研究と併せて、さらに授業づくりに関する研究を進めることで、「夢」と「二中プライド」を持ち、社会人基礎力を身に付けた生徒の育成を全職員で目指していきたい。

実践記録

地域と共に主体的に活動に取り組む

生徒が主役の学校づくり

～ICT 教育を通した主体的に学ぶ生徒の育成を目指して～

【資料 1】

R 4. 7. 13 音楽科 研究授業



全体に向けてプロジェクタを使い
内容の説明をする様子

友達が琴を弾いている動画を撮影し確認している様子



R 5. 11. 30 数学科 研究授業

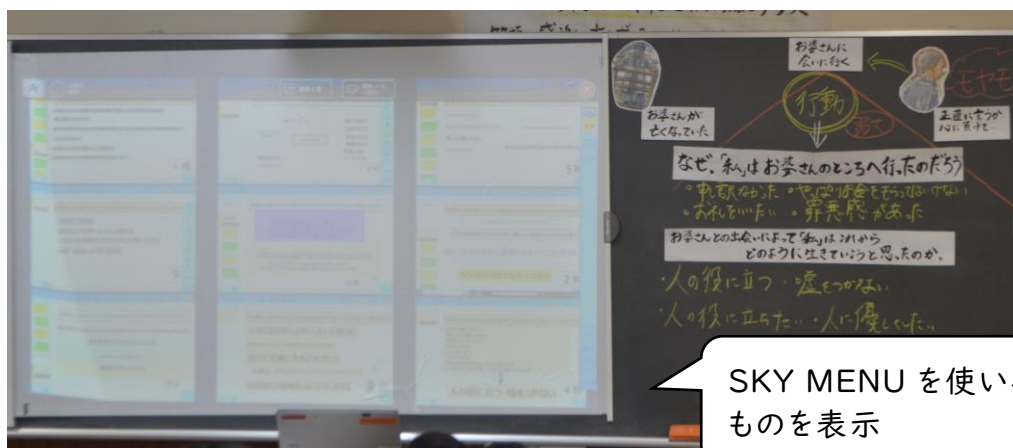


プロジェクタ、SKY MENU を使い
黄金比について説明する様子



身の回りから黄金比を探しタブレットにまとめている

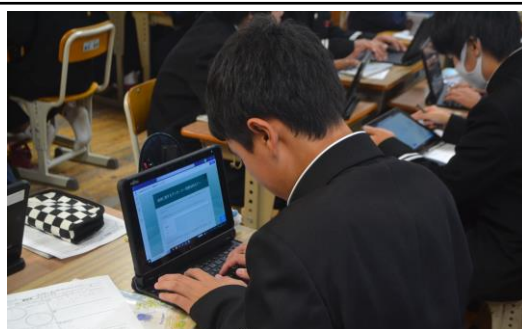
R 5.11.30 道徳科 研究授業



SKY MENU を使い各班の意見をまとめたものを表示

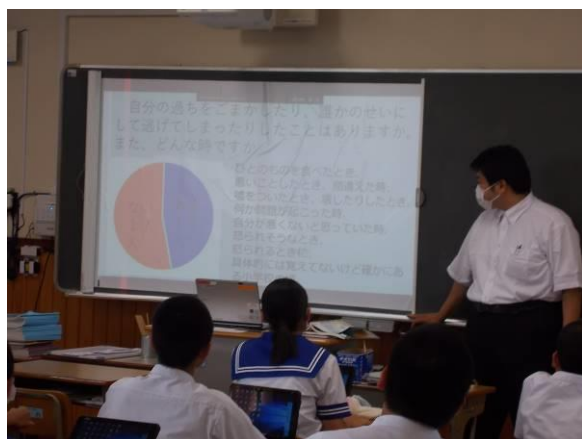


グループワークを行い、意見交換を行う様子



Forms に感想を入力→テキストマイニング

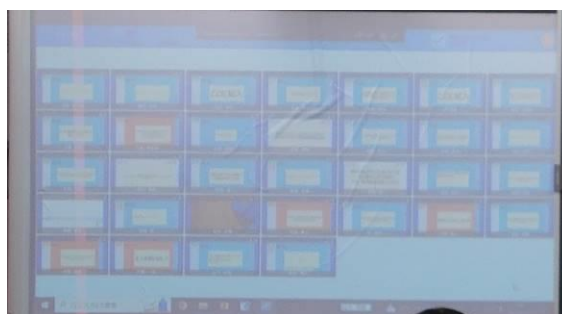
R 5. 7.13 道徳科 研究授業



事前アンケートをまとめて、グラフにして全体に表示

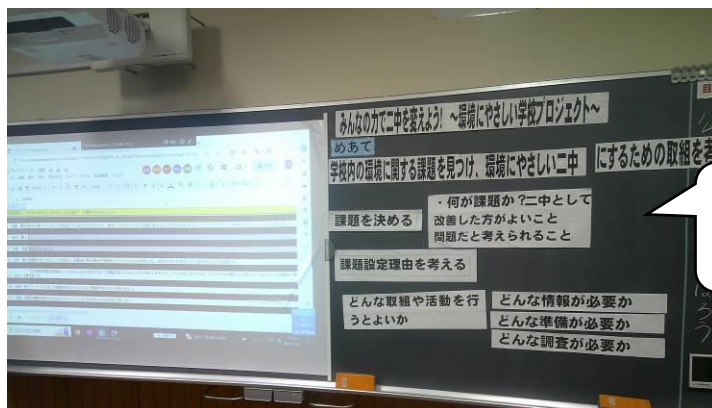


グループワークを行い、意見交換を行う様子



2択の意見を色分けして、全体に表示

R 5.11.30 総合的な学習の時間 研究授業



授業後のプロジェクトと板書の様子



グループワークを行い、自分の目標を立てる



目標について、タブレットを使って意見交流